魚まち通信

発行責任者 魚まち歩観会
会長　中井　孝佳

■魚まち通信目次・・・・・

・トピック
・魚まち紹介【松本②】
・魚まちあの人、この人
・連載〈夜の潮干狩り〉
・名所を歩く
・ながしま弁で遊んでみたら？
・魚まち語録
・昔ながらの漁法・漁具
・味自慢
・歩観会の活動経過

港市でクルージング

熊野灘の島々と海鳥を間近でウォッチング

「船から町の風景を」

クルージングが毎月第2土曜日に開催される港市のメニューになった。

5月から開始予定だったが、度重なる悪天候の為、8月にようやく第1回の航海を行う事ができた。赤野島から「海鳥の碑」、海山区の天満洞から大島の象岩やライオン岩などを巡るコースになっている。それに加え船上からの町の景色や群れをなす魚たち、運が良ければイルカに出会える。

海上も穏やかで空気も澄んでくるこれからの季節が狙い目。12月～5月頃まで渡り鳥が多くなり紀北町の鳥「カンムリウミスズメ」も観察できる。

また海から眺める雪の積もった大台ヶ原は絶景とのこと。

魚まちに住んでいてもこのような景色をみる機会は少ないのでは？と関係者の話。

今後は、港市以外でもある程度人数が集まれば出航できる。

カンムリウミスズメ（チドリ目・ウミスズメ科）

当地方で孫太郎という愛称で親しまれているかわいらしい鳥です。温暖な日本の海域にだけ住む鳥でその数は減りつつあるため国の天然記念物にも指定される。紀伊長島区の耳穴島などは繁殖地としても知られている。

－ お知らせ －

『三重紀北町　年末・みえきいながしま港市』

とき　12月16日（土）～24日（日）の9日間・各日とも午前10時～午後3時
ところ　長島港・魚市場付近

港市が、たっぷり9日間!!

期間中は多彩な催し物が行われます。お歳暮用の鮮魚など豊富な品揃え間違いなし!!　是非、皆様のお越しお待ちしております。

陶板で魚まち紹介

第2回・松本2　（まつもと）

松本の裏通りを進む。2番目の陶板は、引越しが進められている旧郷土資料館に掛かっている。

元は津地方法務局紀伊長島出張所であった建物。小さくても大正あたりの雰囲気を感じさせる粋な建築物である。自慢は一万五千点に及ぶ羊歯（シダ）植物の標本。県内外からの問い合わせが多いという。横城出土の須恵器や桃山美人の伏見人形は、既刊の『魚まち通信』で紹介された。魚まちに最もふさわしいものは漁具である。樽型のうき、鮫突き用の銛（モリ）、蛸壺、、鰹削り器など。日常生活関連の展示物も多い。お金は、藩札をはじめ寛永・天保通宝などの古い銅銭がある。ぜんまい仕掛けの古時計やランプ、60点余りの煙草の外箱など。ピース外箱のコレクションは一見の価値あり。しかしながら老朽化の為、総合支所前の体育館二階に展示される予定。

魚まちあの人、この人

横町の銭湯『旭湯』のさーちゃん

魚まちにある紀伊長島、唯一の銭湯『旭湯』の「さーちゃん」こと山本節子（サダコ）さんを紹介します。

『旭湯』は昭和8年に始まり、72年間建物もそのまま。昭和26年に親の代から銭湯を受け継いだ「さーちゃん」は現在74歳、54年間、毎日銭湯を楽しみに訪れる人の為に仕事を続けています。銭湯に一番大事なのは薪。1巻き20～30キロもある薪を今でも自分で運んでくるそうです。

銭湯に必要な水は久野から引いています。不都合が起こると、自身が直しに行きます。以前、足を踏み外し、腰を打ち、1ヶ月ほど入院したことがあったようですが、そんなことには負けてられないとのこと。

以前、敷地内の池で飼っている鯉が死んでしまった。いないまま放っていたら、大人も子供も池を覗いては「鯉おらんな～。おらんな～。」と言っているのを聞いて松阪まで鯉を買いに走ったそうです。同級生の方にお聞きしたところ「さーちゃんは、何に対してもものおじしない人。とってもおもしろくて、頼もしいよ。」と言っていました。

紀伊長島で「風呂屋のさーちゃん」と言えば、年配の方なら知らない人がいないほどの有名人。笑顔がとっても素敵で、年齢を感じさせない、何と65歳で自動車免許を取得。パワーのある方です。

魚まち歩観会ホームページ完成

魚まちをより多くの人に知ってもらう為に・・・。

10月7日(土)魚まち歩観会の念願であったホームページが完成いたしました。

これまで歩観会の活動報告をする手段は、この「魚まち通信」と各官公施設で配布される活動報告書のみ。多くの人に「魚まち」を知って遊びに来て頂きたいとの願いで、ようやく完成に持ち込むことができました。

内容は、これまで発刊した「魚まち通信」や活動報告。また携帯電話とも連動し、通信で人気の高い「長島弁で遊んでみたら」など初めて魚まちに訪れる方にも便利に利用できるよう工夫しています。今後は景観の写真を掲載したり、より「魚まち通信」との連動を図りながら進化していきたいと思っております。是非、一度ご覧頂き、ご意見やご要望をお聞かせ下さい。

アドレスは http://www.smart-frog.com/pcuo より

古道歩観光会の「魚まちガイド養成講座」

魚まち（西長島）の昔に興味ある方、古道客をもてなしたい方を一般募集致します。今秋より。

講座講師・久保　幸夫氏と受講生の様子。

連絡先・事務局
(05974)7-2459

「私たちは、語り部の会を結成し、熊野古道を訪れる人々に長島のすばらしい話を伝える活動を続けております。
西長島には温かさを感じさせる家並みが数多く残されていると思います。
若い人たちが魚まち案内のマップを制作してくれた今こそ、魚まち地域にも語り部を養成し、この素晴らしさを後世に伝えて行くべきではないでしょうか。」

『夜の潮干狩り』

植村　岐穂子

おかっぱ頭にシ（ュ）ミーズ姿の幼い私とワンピースを着た姉。その古い写真に残る風景。旧江の浦橋から築地の前は、まだ堤防も低く、間知（けんち）石を敷き詰めただけの船着き場でした。◆船着場の下は、普段は浅瀬でしたが、潮が引くと小磯と砂利浜が細長く続き、大潮になると潮干狩りをする近所の人で波打ち際は埋まりました。でも、それは決まって夜だったのです。当時から長島の女性はみな働き者で、早朝から「いさば屋」へ行ったり、家業や家事に忙しい人ばかりで、その潮時（しおどき）にアサリ掘りをするには、夜しかなかったのでしょう。◆子供たちは、親が掘る手元を懐中電灯で照らす番です。照らすのに飽きると男の子はシャコやハゼを捕まえたり、釣りエサ用のシオムシ（ゴカイ）をとったりして遊んでいました。牡蠣殻で手や足を切る子や、転んだり、服をぬらす子もいましたが、おかまいなしの大にぎわいです。年長の子は親に負けないほどアサリを収穫しました。◆そんな風に楽しい潮干狩りでしたが、護岸工事が始まり、港が整備され完成が近づいたある日のこと。湾にしゅんせつ船が現れ、大きなシャベルで浜の土砂を見る見る間にさらい、どこかへ運んで行きました。浜が、目の前で消えていくのに、どうしようもなく、子供ながらにもどかしさを感じながら眺めていました。海は深くなり、大型船が自由に出入りできる立派な船着場となりました。◆あれから年月が流れましたが、夜の潮干狩りのことが懐かしく思い出されます。